

小学校
における

国際理解学習

京田辺市
×
同志社



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



はじめに / 上村 崇 市長...2
藤原 孝章 特任教授...3

今回の国際理解学習の目的...3

SDGsとは...3

事前授業の取組報告...4

共同授業の取組報告...4,5

授業前アンケート/授業後の手紙交換...6,7

同志社女子大学 藤原せ三紹介...8



はじめに

京田辺市は、2005年(平成17年)、同志社大学、同志社女子大学及び同志社国際中学校・高等学校との連携協力に関する協定を締結し、近年では年間100件を超える連携事業を展開しています。

今回はその一環で、同志社女子大学と連携し、子どもたちが多様な価値観を持ち、さまざまな問題に向き合い主体的に行動していくため、近年、重要視されている「SDGs:持続可能な開発目標」をテーマに、田辺東小学校6年生の子どもたちが、同志社女子大学の学生や同志社大学の外国人留学生と、共に話し合い、学び合う授業を行いました。

学びの輪を広げる一助として、この冊子をご覧ください。



京田辺市長 かみむら たかし
上村 崇

これからの未来をつくる子どもたちには、自己実現を図ることを大切にしつつ、自然や社会、世界と調和し、持続可能な社会を共につくる「共生・共創」の力が必要とされます。京田辺市の子どもたちにとって、身の回りから国際社会まで共通する課題をテーマにした大学生や外国人留学生との意見交換が、それぞれの生き方や暮らし方を考えるだけでなく、世界に目を向け、さまざまな課題にチャレンジするきっかけとなることを期待しています。

これからも同志社大学、同志社女子大学と手を取り合い、本市の子どもたちが大学の有する豊富な知識、技術、人材に触れる機会を創出してまいります。



同志社女子大学 現代社会学部
現代こども学科 特任教授
京田辺市教育委員会 委員

ふじむら たかあき
藤原 孝章

現在の学習指導要領(平成29年告示)には、前文に「持続可能な社会の創り手」を育成することがうたわれています。新しく採用された教科書にも、各教科に「持続可能な社会」と関わってSDGs(持続可能な開発目標)のカラフルなロゴが登場しています。SDGsの学習の窓や入り口は多様ですが、17の目標を貫くキーワードは環境や共生、公正です。京田辺市の学校の先生方、子どもたち、そして同志社女子大学の学生が共に学べることを願っています。

今回の国際理解学習の目的

子どもたちが、身近な「プラスチックごみ問題」をテーマに、環境問題への理解を深め、SDGsを自分ごととして捉え、大学生や外国人留学生と共に課題の解決に向けて考える。

事前授業 (2時間)

SDGs、プラスチックごみ問題について知ろう！プラスチックごみが増え続けるとどうなる？どんな取り組みが実施されている？自分にできることは？

共同授業 (1時間)

プラスチックごみの削減に向けて、企業や外国の取り組みを知ろう！課題解決のアイデアやSDGsとの繋がりを考えよう！

授業後の手紙交換 (小学生⇄外国人留学生)

感じたことを手紙交換しよう！



エスディー・ジーズ

SDGs <持続可能な開発目標>



「SDGs」とは「Sustainable Development Goals」を省略した世界共通の言葉。2030年までに世界のさまざまな課題を解決するため、2015年に国連が採択した17の目標を意味し、貧困や飢餓、人種差別や教育格差、技術革新や自然環境など多くの分野にわたっています。将来もすべての人々の豊かな生活(=持続可能な未来)を実現するために、また人間や他の生き物も快適に暮らせる地球を未来に残すために、すべての人が取り組むべき目標であり、一人ひとりが身近なことから取り組むことのできる、未来のための重要な課題です。

事前授業

SDGsについて「2030年までの目標」「持続可能な社会」というキーワードを押さえながら学び、プラスチックごみの問題について知ろう

SDGsは、地球の未来につながる、自分たちにも関係の深い課題であることを漫画や映像を使って学習しました。また「プラスチックごみ問題」について、ポイ捨てされたごみはどこへ行くのか？自分にできることは何か？を考えました。



授業の様子：田辺東小学校6年2組

共同授業

大学生や外国人留学生と一緒に、プラスチックごみ問題について「SDGsとのつながり」や「企業、外国の取り組み」を学習し、より良い社会にするためのアイデアを考えよう

プラスチックごみの削減をテーマに、ごみ問題とSDGsとの関連性について考えるとともに、企業や外国の取り組みを学習しました。また外国人留学生の発表を聞くことで、SDGsが日本だけの目標ではないことや国際理解にもつながっていることが分かりました。そして、グループごとに課題の解決に向けたアイデアを出し合い、SDGsとのつながりを発表しました。



授業の様子：田辺東小学校6年1組

身近なことがSDGsにつながっているよ！



「エコバッグ」や「マイボトル」を持つなど、自分にもできる取り組みがある

プラスチックごみを減らす身近な取り組みがSDGsの複数の目標につながっている

一人ひとりの取り組みが、2030年に向けたより良い社会につながる

企業や外国のSDGsの取り組みを知ろう！



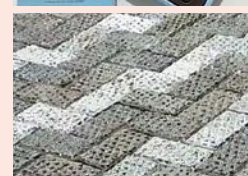
SDGsの達成に向けて、プラスチックごみの削減に取り組む企業や外国の取り組みを学びました。



「お菓子のパッケージ」や「ストロー」を紙製に変えた

売り物にならない野菜からクレヨンを作った

プラスチックごみと砂を使ってブロックを作り地面や壁に埋め込んだ（ケニア共和国）



(※) スターバックスコーヒーでは、現在、紙ストローではなく、紙カップとストロー不要リッドでの提供に変更されています。

外国人留学生に自国のSDGsの取り組みを聞こう！



「中国では、13年前からレジ袋は有料化されていて、袋の種類によって製造規制があるよ。」

「韓国では、買い物に行く時は、エコバッグだけでなく「容器（=勇氣）を出そう」を合言葉に、容器を持参する取り組みがあるよ（「容器」と「勇氣」は韓国語では同じ表記・発音）。また、プラスチックごみは、成分や色ごとに分別して、新たな製品に作り変えているよ。」

プラスチックごみの削減に向けて、グループでアイデアを出してみよう！

「プラスチック製の筆箱を布製の筆箱に作りかえる」

「ペットボトルをリサイクルして洋服を作る」

「捨てられた野菜から絵の具を作る」

「海のゴミを集めて家具に作りかえる」

「スチール缶からゲーム機を作る」

「食べられるちくわのストローを作る」など



授業は同志社女子大学の藤原ゼミが計画してくれたよ!

ゼミの様子

田辺東小学校の授業内容は、同志社女子大学 現代社会学部 現代こども学科の藤原ゼミが、小学校の家庭科「持続可能な社会を生きる」単元の授業として計画しました。また、共同授業は、藤原ゼミが小学校を訪れ、「SDGs出前授業」として実施しました。

同ゼミでは小学校での授業に向けて、テーマの掘り下げ、教材研究、海外事情のリサーチを行い、それらをもとに指導計画を作成。田辺東小学校の子どもたちに、何をどう伝え、学びにつなげたいのか、ゼミの学生たちで研究した結果「プラスチックごみ問題を知る」「自分たちに



できることを考える」「SDGsとの関連を学ぶ」「自分にできることをする」「輪を広げていく」と、段階的に学習のねらいを設定しました。共同授業の前には、田辺東小学校での授業見学や先生方との綿密な打合せ、外国人留学生との模擬授業を踏まえ、国際的な観点から授業を行いました。

共同授業を終えて

(同志社女子大学 藤原ゼミ 3年次生より)

私たちは、多文化や福祉など各自が興味を持ったテーマをSDGsの観点から調べ、研究を進めています。

今回の授業を通して、今まで想像ができなかった未来を思い浮かべ、生き生きとしている田辺東小学校の子どもたちを見て、私たちもやりがいを感じることができました。自分たちのちょっとした意識や行動で、明るい未来に変えることができる可



能性があるということを感じてもらえたらと思います。

今回、ご協力いただいた田辺東小学校の先生方、6年生、そして、外国人留学生の皆さん、ありがとうございました。

同志社女子大学 現代社会学部 現代こども学科 藤原ゼミ

岡本こころ 栗原 麻緒 田中 瑠莉 土井 愛佳 永井 友理 橋本真由佳
伴 希美 南 志歩 和田 彩花

2021年4月発行 | 企画・編集 | 京田辺市
| 監修 | 同志社女子大学 現代社会学部 現代こども学科 藤原孝章 特任教授

参加者 | 京田辺市立田辺東小学校6年生37名/同志社女子大学 現代社会学部 現代こども学科 藤原ゼミ9名
| 同志社大学 グローバル・コミュニケーション学部 外国人留学生5名